# 本当に役立つ「防災訓練」とは！？

## ―いつまでも「防災ショー」「劇場型訓練」だけでよいのでしょうか！？―

（高橋　洋：予防時報2007、8-13、2007）

2018年5月25日、災害医学抄読会 http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/

---

### *1．　はじめに*

深刻な災害を経験された地域や、将来の災害に本気で備えようとしている自治体等で、災害時の対応力や地域防災力の向上に役立つことなどを目的として、大変工夫された防災訓練が増えてきている。

### *2．「防災ショー」や「劇場型訓練」は「防災訓練」か？*

2002 年、練馬区は区内全体を訓練会場とし、同時多発的に行った。このことより、大災害に立ち向かうには、少数の防災担当だけでは厳しく、市民や企業・団体などの様々な活動が災害時に力を発揮するであろうことが理解できた。

### *3．　市民・地域社会が主役で被害を減らすために*

防災訓練で初期消火や応急手当などの技術を習得することはもちろん大切であるし、被害をなるべく発生させないための教育・啓発の場としても活用する必要がある。例えば、小中学校や高校などの児童生徒の防災訓練では、建物火災からの避難だけでなく、メニューの豊富な実践的な訓練を提供すると効果的である。学校だけに任せずに、消防団、自治体防災担当などによる提起と協力が必要である。

### *4．「役所」の災害対策能力はどうやって鍛えられるのか*

大災害時に自治体の職員が果たすべき役割は、地域防災計画に定められている各局・部・課・係等の所管業務であり、それが行うべき「防災業務」である。したがって、訓練をするなら、「業務継続計画」の策定と図上訓練などによる検証・改善の取り組みを始めることが求められている。

### *5．　練馬区での経験等から、防災訓練の改善を考える*

同時多発的に存在する避難拠点のそれぞれで、拠点要員が自分たちの役割を自覚し、避難拠点を中心とした大災害時の情報収集や発信、連絡調整が円滑に動くことを検証しなければならない。避難拠点要員を育てるには、座学の教育に加えて地域住民とのコミュニケーションをとることも必要である。区民とともに学習し行動することが大切なのである。

### *6．　防災訓練改善に関する今後の課題と提言*

災害に立ち向かう個々の技術向上も大切だが、対策を行う人々が広がっていくためには、行政や市民、企業などがその大切さを「意識」できるかどうかにかかっている。自分たちの住んでいる地域の問題点を確認しつつ、意識変革型の「頭脳型の防災訓練」に取り組めることができるならば、防災意識の高まりを継続する可能性が大きくなると言えよう。